

## 第二十八日目

師 範：応仁の乱は1477年に終わりました。



しかし、山城の国では、守護である畠山氏の一族の争いが始まりました。この戦場になってあらされることに反対して、地元の武士[国人]と一般の民衆が協力し合うことになりました。

一揆衆は、宇治平等院で集会を開いて、自治のおきてを決め、8年間にわたって山城の国をおさめました。

この一揆を山城の国一揆という。

**1485年 山城の国一揆がおこる。**

この年を覚えましょう。

ペン太：ぼくは



**「山城の国人の意志はいつも固い」**

としました。

「いし」は14, 「は」は8, 「いつ」は5, これで1485です。

師 範：一揆衆の固い結束。

8年間も自治を行えたということは、歴史に残ることだった。

それほどまでに結束が固かったということが、よく表されています。